

管理運営の基本理念と方針

基本理念

小笠原の自然、歴史、文化を知る 訪れる度に新しい発見がある「ディスカバリーパーク」！

大神山公園には、小笠原を特徴づける動植物を含めた自然環境だけではなく、島が歩んだ歴史の一端が今も刻まれています。また、小笠原ビジターセンターには小笠原の自然、歴史、文化に関する様々な情報が集められています。

この大神山公園と小笠原ビジターセンターを一体として、それぞれの擁する自然・文化資源等を様々な手法により活用・発信していきます。

小笠原を初めて訪れた人から、島に暮らす人までが、ここに来れば常に「新しい発見」をすることができる「ディスカバリーパーク」となるよう、魅力の向上に努めます。

この基本理念の実現を図るため、以下の3つの方針に基づき、管理運営ノウハウを活用し、取り組んでまいります。



ディスカバリーパークのイメージ図

基本方針1	●固有植物を公園内に植栽することで、小笠原の植物見本園の充実を図ります。 ●固有植物の植栽や外来種駆除により、多様性保全に配慮した管理に取り組みます。 ●アカガシラカラスバトの食餌植物の植栽や、アオウミガメの迷走防止柵の設置等、貴重な動物の保護に努めます。
基本方針2	●自然、歴史、文化等の幅広い情報を集め、多様なプログラム開発や情報発信に活用します。 ●豊富な知識と解説技術を活かし、質の高い解説サービスを提供します。 ●自然から文化までを楽しみながら学べるセルフガイドツールを作成します。 ●展示企画ノウハウと、楽しく学べるハンズオン等の展示ノウハウを活用し、魅力的な展示を作成します。 ●自然公園でのマナーやルール、野外での危険情報、気象情報等、安全で適正な利用の普及啓発に取り組みます。
基本方針3	●これまでに築いた広報チャンネルを活用し、広報活動の充実を図ります。 ●旅行代理店との協力関係を活用し、乗船前広報活動、船内広報活動等を行い、大神山公園及び小笠原 VC の利用促進を図ります。 ●港に設置した広報ブースを活用し、施設の利用促進を図ります。 ●出張展示等、内地のイベントを活用した広報ノウハウを活かし、より幅広い対象に対して広報活動を行います。 ●ホームページを活用し、タイムリーな情報により小笠原の魅力を伝えます。
施設の魅力を効果的に伝える広報活動の展開	

管理運営の方針と具体的な取組

私たちは環境の変化や新たなニーズを考慮し、誰もが新たな気づきや満足を得られる「ディスカバリーパーク」として、管理運営方針を以下のように設定します。

管理運営方針1：生きものと出会う場を創出する維持管理

- マルハチ等の固有種の植栽や外来種の駆除等により、貴重な植物を保全することで、生物多様性の向上
- アカガシラカラスバトの食餌植物を育成する等、固有動物の生息域としての環境整備
- モクマオウ等、外来種の駆除による小笠原固有の生態系、景観の回復

管理運営方針2：世界自然遺産の価値を伝える情報発信

- ガイドプログラムの充実による世界自然遺産についての理解促進
- 大神山公園・小笠原 VC で世界自然遺産小笠原について学びの場であることを発信

管理運営方針3：多様な資源情報の活用によるプログラムの充実

- 体験プログラムの充実による小笠原の自然及び歴史的・文化的特性の発信
- 研究者と連携した講演会の開催等、小笠原の価値や魅力を発信

管理運営方針4：ユニバーサルデザインを取り入れた利用者サービスの向上

- ネイチャアフィーリング等、誰もが参加でき、楽しめるプログラムの実施

管理運営方針5：利用者の安全で適正な利用についての普及啓発

- 気象情報・登山道情報等、利用者の安全に関わる情報を収集し、タイムリーに発信
- 小笠原の自然保護の意味や自然公園におけるマナーやルールについて、普及啓発

質の高いサービスの提供

(1) 生きもの見本園としての大神山公園の管理運営

- ①公園の魅力向上による利用の促進
 - ・ NPO と連携したオガサワラアザミ等固有植物の計画的植栽
 - ・ オガサワラオオコウモリ等、固有動物の園内誘導
- ②自然資源を活用したプログラム提供
 - ・ スタンダラリ形式の導入等、セルフガイドシステムの充実
 - ・ 固有種の植栽体験等、自然環境保全体験プログラムの提供
 - ・ 戦跡等、歴史や文化を交えたガイドウォークの内容充実



ガイドウォーク

(2) ユニバーサルデザインを取り入れたサービス提供

- ①五感で感じるネイチャアフィーリングの手法を取り入れた自然体験プログラムの実施
- ②コミュニケーションボードを設置し、筆談により対応



特別展「ザトウクジラ展」

(3) 小笠原ビジターセンターにおける展示、解説等の充実

- ①展示
 - ・ 常設展の他、幅広いテーマによる特別展を開催
 - ・ 実物やハンズオンを用いた展示内容の充実
 - ・ ライブカメラによる映像展示
 - ・ ビジターセンター内の展示を活用したガイドウォークの実施
- ②解説業務
 - ・ 自然体験プログラム、文化体験プログラム
- ③自然教室の取組
 - ・ 「小笠原の歩き方」シリーズの追加・充実、「植生プリント」の作成
 - ・ 大神山公園散策マップの活用
 - ・ 小笠原自然文化講演会の開催



「植生プリント」

広報活動の取組

(1) ホームページを活用した効果的な情報発信

- ①年間 3,900 万 PV を誇る、公園協会 HP「公園へ行こう！」を多言語（日英）に対応
- ②ページ内の「お知らせ」（ブログ）を毎日更新するとともに、「公園なう！」に自然情報等を写真付き英語併記にて掲載

(2) 公園協会の組織力を活かした広報媒体の活用

- ①公園協会が管理する他公園・庭園・ビジターセンター等でニュースレター等を配布
- ②「緑と水のひろば」での紹介、「緑と水の市民カレッジ」での講座開催・PR

(3) 定期船に対する広報活動

- ①おがさわら丸船内で上映する観光 PR 映像で大神山公園及び VC を紹介
- ②船内において広報用パンフレット、情報紙等を配布

(4) 観光船に対する広報活動

- ①乗船予定者に VC の案内を事前送付
- ②二見港に設置した広報ブースを活用し、来島した観光客に直接チラシ配布や説明を実施

(5) 島外施設・イベント等での PR

- ①東京愛ランドフェア、新宿御苑みどりフェスタ、東京都観光情報センター等で広報

(6) 島内での情報発信

- ①小笠原村の防災無線や村民だより等の活用、宿泊施設や店舗等にパンフレット設置

地域の人材や団体との連携

(1) 連携を通じた取組と主な連携先

- ①解説活動…ポニンインタープリター協会
- ②体験プログラム活動…南洋踊り保存会ナア・ブア・ナニ・オ・マクア
- ③展示活動…ポニンインタープリター協会、小笠原野生生物研究会
- ④講演会の開催…首都大学東京、小笠原ホエールウォッチング協会、亜熱帯農業センター
- ⑤自然保護の普及啓発活動…小笠原自然文化研究所、小笠原海洋センター
- ⑥自然公園での安全で適切な利用指導…環境省、小笠原村、東京都自然保護員
- ⑦施設の広報活動…小笠原村観光協会

施設維持管理計画

1 日常管理における取組方針

(1) 安全・安心・快適性を常に追求する計画的な維持管理

- ①PDCA サイクルに基づく計画的な維持管理（予防保全的観点での維持補修）
- ②「公園クイックナビシステム」（GPS）を活用した迅速・的確な維持管理

(2) 父島の魅力を高め、生物の生息環境を次世代に継承する上質な維持管理

- ①地域の誇りとなる「父島パークビュー」を意識した維持管理
- ②剪定枝の堆肥化による環境に配慮した維持管理
- ③ユニバーサルデザインに配慮した維持管理
- ④専門職員による樹木診断等、効率的で良質な維持管理

(3) 多様な主体と連携・協働した効果的な維持管理の推進

- ①関係団体等との協働による維持管理の推進
- ②新工法等を活用した効果的な維持管理



メイン展望台から見た二見湾

2 緊急時における迅速・円滑な対応

(1) 事故や故障等への対応

- ①直営と委託を組み併せた適切な対応により迅速・円滑に復旧
- ②地元の企業等と特約店契約を結び、365日緊急対応が可能な体制を構築

(2) 地震や大雨等、自然災害時の対応

- ①「ハザードマップ」による事前点検等災害防止対策の実施
- ②地震や台風大雨に備えた緊急配備体制の確保

小笠原諸島の自然環境に配慮した植生管理

(1) 基本的考え方

広域分布種等も含めた見本園機能を更に充実させていくとともに、固有の動物が嗜好する樹種を選択的に育てる等、動物も含めた小笠原を特徴づける生きものの生育・生息環境である、「生きもの見本園」として維持管理を行っていきます。

(2) 動植物の生息・生育環境の保全

- ①固有植物の植生管理
 - ・アサヒエビネやオオハマボス等、固有種の植栽
 - ・シマザクラ等、実生更新の促進
 - ・外来種の駆除や食害の防除等による育成管理
- ②希少動物の保護管理
 - ・園内消灯等によるアオウミガメの保護
 - ・保護柵の設置等、アカガシラカラスバトの保護
 - ・ガジュマル等の選択的伐採等、順応的植生管理



アサヒエビネ



オオハマボス



アカガシラカラスバト



アオウミガメ

(3) 自然を守るための適正な利用を促す方策

- ①小笠原カントリーコードの普及啓発
- ②自然保護の解説を交えたガイドウォークの実施
- ③外来種駆除等、公園管理体験プログラムの実施

オリンピック・パラリンピックを契機とした公園の魅力向上の取組

(1) おもてなし・窓口サービスの充実

- ①ビジターセンター窓口等に英語対応可能な職員を配置

(2) 公園で「花と緑のおもてなし」

- ①小笠原の固有種を植栽した「おもてなし花壇」を設置
- ②小笠原の自然を身近に体験できるよう、大神山公園に固有種を植栽
- ③「父島パークビュー」を設定し、ビューポイントとしてアピール

(3) 公園へのアクセス・回遊性の向上

- ①「地域周遊マップ」等を作成し、島内の回遊性を向上

(4) 公園から世界への情報発信（多言語化）の推進

- ①協会 HP を多言語化（日英）するとともに内容を充実し、スマートフォン等からのより詳細な情報を提供

(5) すべての人々への「思いやり」の心を大切に

- ①五感で自然を感じるネイチャアフィーリングの手法を用いた自然体験プログラムを実施
- ②カウンターに筆談用のコミュニケーションボードを設置



固有種による「おもてなし花壇」



地域周遊マップ